

「しおかぜ自然環境調査で実施した観察会の概要について」

生物多様性センターでは、昨年に引き続き、東日本大震災で津波の影響を大きかった東北地方沿岸部で、観察会形式のしおかぜ自然環境調査（※）を3回おこないました。

今年は、7月末～8月の夏休みに、岩手県碓石海岸、宮城県牡鹿半島、福島県いわき市で各1回おこない、合せて48名の方々にご参加いただきました。

当日の様子のほか、地元の新聞や地域情報誌にも掲載された内容を紹介します。

※しおかぜ自然環境調査は、東日本大震災の影響があった地域を中心に、対象とする20種類の生きものについての分布情報を集めて地図に示すことで、震災前後の生きものの状況の変化を知ることが目的にしています。

- ◆今年実施した3回の観察会一覧を表1に、観察会開催地を図1に示します。
また、各回の様子を以下にまとめました。

表1 観察会一覧

項目		第1回	第2回	第3回
1	日にち	7月31日(日)	8月11日(木・祝)	8月20日(土)
2	時間	9時30分~12時	10時~14時	10時~12時
3	場所	岩手県大船渡市 碁石海岸遊歩道	宮城県石巻市 牡鹿半島(潮風トレイル)	福島県いわき市 三崎公園
4	環境	マツ林、岩石海岸	沢、砂利浜、樹林	主に砂浜、その他斜面
5	内容	海岸の地形、動植物調査	沢の下流~河口部の動植物調査	砂浜海岸の動植物調査
6	テーマ	見つけてみよう！ 地球の不思議、海岸の動植物 碁石海岸自然観察会	水辺の生きもの発見！！ みちのく潮風トレイル 牡鹿半島自然観察会	発見！！砂浜にかくれた 生きものたち 三崎公園自然観察会
7	観察した種	分類群 哺乳類、鳥類、植物	哺乳類、昆虫類、その他 無脊椎動物、植物	植物、その他無脊椎動物
	しお かぜ 対象 種	ニホンジカ、ハマボッサ	ニホンジカ、ハマヒルガ オ	ハマダンゴムシ、ハマ エンドウ、ハマヒルガ オ、ハマボッサ
8	連携した 団体	<ul style="list-style-type: none"> 碁石海岸インフォメーションセンター 大船渡市立博物館 一般社団法人大船渡市観光物産協会 椿の里・大船渡ガイドの会 環境省東北地方環境事務所 大船渡自然保護官事務所 	<ul style="list-style-type: none"> (一社)おしかリンク 桃浦行政区有志一同 	<ul style="list-style-type: none"> 福島県植物研究会 アクアマリンふくしま
9	講師 (所属・ 専門) ※敬称略	佐藤悦郎(大船渡市立博物館 元館長・地形地質) 菊池英夫(椿の里・大船渡ガ イドの会・植物)	甲谷強(桃浦区長) 浅尾勝彦(株式会社地域 環境計画・動物)	根本秀一(福島大学・植 物) 津崎順(アクアマリンふ くしま・海辺の動植 物)
10	参加者数	参加者12名 講師2名 スタッフ6名 合計20名	参加者16名 講師2名 スタッフ5名 合計23名	参加者20名 講師3名 スタッフ6名 合計29名



図 1 観察会開催地

◆今回の調査では、しおかぜ自然環境調査の調査対象種 20 種のうち、ニホンジカ、ハマダンゴムシ、ハマエンドウ、ハマボッス、ハマヒルガオの5種が確認できました。各観察会の確認状況は表 2 に示すとおりです。

表 2 しおかぜ自然環境調査対象種の確認状況

調査回	哺乳類			鳥類			爬虫・両生類			昆虫類			その他 無脊椎動物			植物				
	イノシシ	ニホンジカ	ハクビシン	キジ	ツバメ	ノスリ	ニホンカナヘビ	アオダイショウ	アカハライモリ	ニホンアマガエル	アキアカネ	ハラビロカマキリ	ツマグロヒョウモン	アカボシゴマダラ大陸亜種	ハマダンゴムシ	アシハラガニ	アサリ	ハマエンドウ	ハマボッス	ハマヒルガオ
1		●																	●	
2		●																		●
3														●				●	●	●

◆第1回観察会

- 開催地：岩手県大船渡市碁石海岸
- 開催日：2016年7月31日（日） 天気：晴れ
- 地元5つの団体にご協力頂き、実施致しました。
- しおかぜ自然環境調査対象種のハマボッスやニホンジカのほか、スカシユリやネジバナ等、哺乳類1種、鳥類2種、植物14種の合計17種を観察しました（表3、図2）。
- アンケートより、参加者全員の方から「楽しかった」との感想を頂いたほか、「五感を使った観察会となり楽しいひと時を過ごすことができた」、「いきものログに登録することにより、観光にも繋がるということなので、ぜひ活用させて頂きたいと思います」などの感想が寄せられました。
- 協力団体の大船渡市立博物館には、野外での活動後に博物館のホールをお借りしたほか、碁石海岸インフォメーションセンターには、地元の特産品であるラベンダーで作った香り袋を作って頂き、参加者に配布するなど、積極的にご協力頂きました。
- 観察会の様子は、東海新報（2016年7月15日）や、岩手日報（2016年8月1日）に掲載されました。

表3 観察した生物（岩手県大船渡市碁石海岸）

分類	No.	種名	合計
哺乳類	1	ニホンジカ★	1種
鳥類	1	ウミネコ	2種
	2	ウミウ	
植物	1	アカマツ	14種
	2	クロマツ	
	3	ラセイタソウ	
	4	ハマボッス★	
	5	ウツボグサ	
	6	オオナンバンギセル	
	7	ツリガネニンジン	
	8	カセンソウ	
	9	ヤブカンゾウ	
	10	ヤマユリ	
	11	スカシユリ	
	12	クルマユリ	
	13	ヒメヤブラン	
	14	ネジバナ	
合計 17種			

表中の★は、しおかぜ自然環境調査の調査対象種です。



図3 生物確認位置図

碓石海岸で発見を

31日に自然観察会

大船渡

「発見!! 碓石海岸自然観察会」は31日(日)午前9時から、大船渡市末崎町の碓石海岸で開かれる。28日(木)まで参加者を募集している。

いきものログ運営事務局が主催し、碓石海岸インフォメーションセンターが共催。いきものログは、環境省をはじめ、個人や各組織の生きもの情報を共有提供するシステム。

観察会は、碓石海岸を散策してその成り立ちやそこに生きている動植物を理解を深めてもらうと企画。前大船渡市立博物館長の佐藤悦郎氏、樺の里・大船渡ガイドの会の菊池英夫氏が講師を務める。

p. 3 →

当日は碓石海岸インフォメーションセンターに集合後、「乱曝谷」大浜または「乱曝谷」碓石岬のコースで遊歩道を散策。動植物や地形地質を観察する。その後、市立博物館で観察した生物などを復習し、いきものログへの登録も行う。終了予定時間は正午。小雨決行だが、荒天の場合は中止。

対象は2時間程度の散策が可能で、小学生以下は保護者の同伴が必要。定員は30人。参加料は無料で、飲み物、雨具などを持参する(任意)。

希望者は電話かファクス、メールで「碓石海岸観察会申し込み」として、住所、参加者

全員の名前、性別、年齢、当日可能な電話番号を伝えること。

問い合わせ、申し込み先は同センター。PAX 29・20000、メール goshiinfo@sanniku-otunato.org。

東海新報 2016年7月15日掲載

※この記事・写真は東海新報社の許諾を得て転載しています。

兄じし

り上がった宮古夏まつり

碓石海岸じっくり 自然観察会 遊歩道散策



佐藤悦郎前館長(右)の説明を聞きながら碓石海岸の景観を楽しむ参加者

大船渡 大船渡市末崎町自然観察会(いきものログ)は31日、碓石海岸遊歩道などで開かれた。参加者は植物や景観

を歩いて楽しみ、碓石海岸の自然を満喫した。

市内外から11人が参加。樺の里・大船渡ガイドの会の菊池英夫さんと大船渡市立博物館の佐藤悦郎前館長が講師を務め、碓石海岸インフォメーションセンターを出発点に遊歩道など約1・6キロを歩いた。

松林に囲まれた道中ではヤマユリやクルマユリが見ごろを迎え、参加者は植物を見つけると、写真に収めながら散策を楽しんだ。

立根小3年の佐々木彩奈さんは「初めて見たり聞いたりのものばかり。ヤマユリがきれいだった」と新たな発見に目を輝かせた。

岩手日報 2016年8月1日付朝刊

※この記事・写真は岩手日報社の許諾を得て転載しています。

	
<p>植物観察の様子</p>	<p>地形地質の観察の様子</p>
	
<p>海岸部の様子</p>	<p>観察した植物 ハマボッサ</p>
	
<p>観察した植物 オオナンバンギセル</p>	<p>いきものログ紹介の様子</p>
	
<p>参加者によるいきものログ登録の様子</p>	<p>集合写真</p>

〈碁石海岸観察会の様子〉

◆第2回観察会

- 開催地：宮城県石巻市桃浦
- 開催日：8月11日（木・祝） 天気：晴れ
- 桃浦行政区有志一同と（一社）おしかリンクにご協力頂き、実施致しました。
- しおかぜ自然環境調査対象種のニホンジカやハマヒルガオのほか、スミウギゴリやモクスガ二等、哺乳類1種、昆虫類5種、魚類6種、底生動物2種、植物1種の合計15種を観察しました（表4、図4）。
- 地域の方から牡鹿半島の海で捕れたカニをご提供頂き、カニ汁を食べました。アンケートより、「地域の物を食べるというのも、地域を知るのに大変良いと思う」といった意見が寄せられました。
- アンケートより、参加者全員の方から「楽しかった」との感想を頂いたほか、「沢には水生生物が沢山いることが分かって良かった」、「震災前の桃浦に戻るのはまだ時間がかかりそうだが戻りつつあって良かった」、「また来たい、毎年観察会をやって欲しい」などの感想が寄せられました。
- 協力団体の桃浦行政区有志一同の甲谷区長には、観察会を実施した桃浦地区の成り立ちや、現在の取組みなどをご紹介頂きました。参加者からは、「地域の方の協力が所々にあって素晴らしいと思った」などの意見が寄せられました。
- 観察会の様子は、牡鹿半島の地域情報誌「いんぷおおしか」（2016年9月発行）に掲載されました。



採集した生きものをじっくり観察
〔写真提供：いきものログ運営事務局〕

網を片手に生きもの探し

8月11日、桃浦地区内のみちのく潮風トレイル予定地にて「水辺の生きもの発見！牡鹿半島自然観察会」が行われました。環境省生物多様性センターが提供するサイト「いきものログ」の運営事務局が主催し、桃浦行政区住民の有志と（一社）おしかリンクの協力で実施されました。子どもも大人も沢へ繰り出し、タモ網やワナを使い、モクスガニやスミウギゴリをはじめ10種類以上の生きものを採集し、専門家と一緒に観察しました。

桃浦行政区長・甲谷強さんから、昔の桃浦や自然の姿について聞く時間があがり、半島の豊かな自然を存分に満喫する1日となりました。

「いんぷお・おしか」 2016年9月発行

※この記事・写真は石巻市牡鹿地区復興応援隊の許諾を得て転載しています。

表 4 観察した生物（宮城県石巻市桃浦）

分類	No.	種名	合計
哺乳類	1	ニホンジカ★	1種
昆虫類	1	サナエトンボ類	5種
	2	ミルンヤンマ	
	3	シマアメンボ	
	4	ヘビトンボ	
	5	クロスジヘビトンボ	
魚類	1	ウグイ	6種
	2	ボラ	
	3	スミウキゴリ	
	4	マハゼ	
	5	ヨシノボリ類	
	6	ヌマチチブ	
底生動物	1	スジエビ	2種
	2	モクズガニ	
植物	1	ハマヒルガオ★	1種
15種			

表中の★は、しおかぜ自然環境調査の調査対象種です。

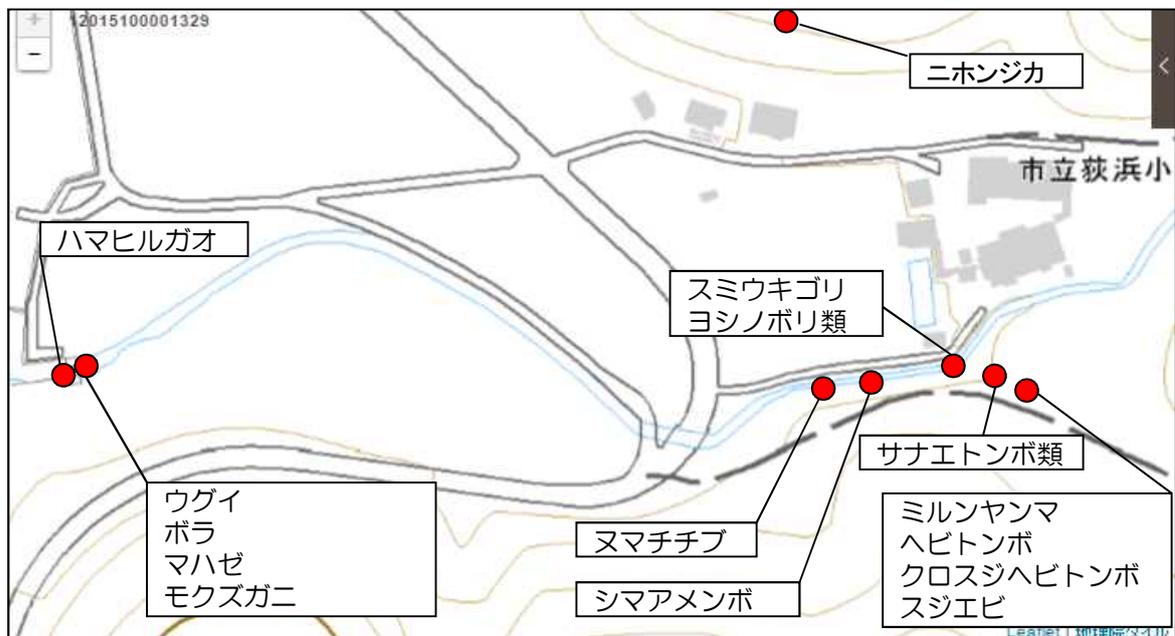


図 4 生物確認位置図

	
<p>観察会実施場所</p>	<p>水生生物採集の様子</p>
	
<p>水生生物採集の様子</p>	<p>水生生物採集の様子</p>
	
<p>採集した生物の観察</p>	<p>採集した魚類（スミウキゴリ等）</p>
	
<p>桃浦地区甲谷区長のお話</p>	<p>いきものログの紹介</p>

＜牡鹿半島観察会の様子＞

◆第3回観察会

- 開催地：福島県いわき市三崎公園
- 開催日：8月20日（土） 天気：晴れ
- 福島県植物研究会、アクアマリンふくしまの2団体にご協力頂き、実施致しました。
- しおかぜ自然環境調査対象種のハマダンゴムシ、ハマエンドウ、ハマヒルガオ、ハマボッスのほか、ハマギクやイボバッタ等、昆虫類16種、その他無脊椎動物1種、貝類2種、植物10種、その他1種の合計30種を観察しました（表5、図5）。
- しおかぜ自然環境調査対象種である「ハマダンゴムシ」探しはとても好評で、年齢に関係なく、参加者の皆さんが楽しんで採集されていました。
- アンケートより、参加者ほとんどの方から「楽しかった」との感想を頂いたほか、「こんな生きものが砂浜にいることが驚きだった」、「生物の生命力に改めて感心した」、「これからも実施して欲しい」などの感想・意見が寄せられました。
- 観察会の様子は、福島民報（2016年8月7日、8月23日発行）や、いわき市の地域情報誌「タウンメディア」（2016年8月31日発行）に掲載されました。



図5 生物確認位置図

表5 観察した生物（福島県いわき市三崎公園）

分類	No.	種名	合計
昆虫	1	シオカラトンボ	16種
	2	ウスバキトンボ	
	3	ショウリョウバッタ	
	4	クルマバッタモドキ	
	5	イボバッタ	
	6	ハマベハサミムシ	
	7	ツクツクボウシ	
	8	ミンミンゼミ	
	9	ウミベアカバハネカクシ類	
	10	コクワガタ	
	11	スジクワガタ	
	12	ハマヒョウタンゴミムシダマシ類	
	13	アオスジアゲハ	
	14	モンキチョウ	
	15	モンシロチョウ	
	16	ヤマトシジミ	
その他無脊椎動物	1	ハマダンゴムシ★	1種
貝類	1	クボガイ	2種
	2	クロアワビ	
植物	1	オオバヤシャブシ	10種
	2	ラセイタソウ	
	3	ツルナ	
	4	ドクダミ	
	5	ハマエンドウ★	
	6	クズ	
	7	ハマボッス★	
	8	ハマヒルガオ★	
	9	ハマギク	
	10	ヤマユリ	
その他	1	ムラサキウ二	1種
合計 30種			

表中の★は、しおかぜ自然環境調査の調査対象種です。

浜辺の生き物 観察しよう

浜辺に生きる動植物の自然観察会は二十日午前十時から、いわき市の三崎公園で開催される。参加費無料で、定員は先着順の三十人。十八日まで申し込みを受け付けている。

20日にいわき

いきものログ運営事務局の主催、県植物研究会、アクアマリンふくしまの協力。公園内の砂浜に生きるハマボスやハマダンゴムシなどの動植物を調査した後、環境省生物多様性センターが運用している生物多様性情報を共有するウェブシステム「いきものログ」の使い方を体験しながら観察会を振り返る。

観察会は、これまで青森県八戸市から相馬市にかけての太平洋沿岸で計六回実施され、津波の被害を受けた海岸に生息する動植物を記録してきた。

問い合わせは事務局の地域環境計画 電話022(772)6951へ。

福島民報 2016年8月7日掲載

※この記事・写真は福島民報社の許諾を得て転載しています。

福島民報
報 2016年(平成28年)8月23日(火曜日)

浜辺の動植物発見

小名浜 三崎公園で観察会

浜辺に生息する動植物の自然観察会は二十日、いわき市小名浜の三崎公園内の砂浜で開催された。

いきものログ運営事務局の主催で、観察会は九回目。これまで青いきものログ運営事務局の森県から本県にかけての太平洋沿岸で実施しており、東日本大震災の津波被害を受けた海岸に生息する動植物の状況を確認してきた。約二十人が参加した。アクアマリンふくしま職員、県植物研究会が案内役を務め、ハマダンゴムシやハマヒルガオが砂浜に生き続けている様子を観察した。

参加者は、環境省生物多様性センターが運用している生物多様性情報を共有するウェブシステム「いきものログ」の使い方も体験し、観察の成果を振り返った。



浜辺に生息する動植物を観察する参加者

福島民報 2016年8月23日掲載
※この記事・写真は福島民報社の許諾を得て転載しています。

ハマダンゴムシみつけ

砂浜で自然観察会

東日本大震災後の動植物の分布について調べる自然観察会が20日、三崎公園内の砂浜で行われ、これまでほとんど報告がないハマダンゴムシの生態などを観察した。

環境省生物多様性センターが運営するインターネットシステム「いきものログ」運営事務局の主催。アクアマリンふくしまの飼育員津崎順さんや福島大学の根本秀一さんらが講師を務め、約20人の親子らが浜辺を歩いて回った。

ハマダンゴムシはダン

ゴムシの仲間で海岸に住む唯一の種。オカダンゴムシに比べ色が豊富で模様がある。夜行性で打ち上げられた海藻などを食べる「海岸のそうじ屋さん」(津崎さん)。日中は深さ5センチ程度の湿った砂浜にいることなどが説明され、参加者はスコップを使って探した。



ハマダンゴムシ(左上)を探す参加者

小島町から参加した幼稚園児猪狩香歩ちゃん(6)は自然が大好き。2センチある大物を次々、捕まえて「かわいい」と喜んだ。参加者は、ハマダンゴムシが昆虫と違って、足が14本あることなどの

説明を受けて驚いていた。このほか、ゴワゴワとした堅い葉で潮風から身を守っている多年草のラセイタソウや乾燥に強い葉を持つトベラなどを観察。海辺の動植物に理解を深めた。主催者では、全国の生物情報を収集、提供するインターネットシステム「いきものログ」への利用を呼び掛けた。

タウンメディア 2016年8月31日発行
 ※この記事・写真は共同通信社の許諾を得て転載
 しています。



観察会実施場所



植物観察の様子



ハマダンゴムシ採集の様子



ハマダンゴムシ採集の様子



採集した生物の観察



採集したハマダンゴムシ



いきものログの紹介



集合写真